

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2014年3月）

目次

内政

- ◆大統領選挙 2
- ◆中道右派3党の「人民プラットフォーム」崩壊 2
- ◆プロハーツカ議員の新党結成宣言 3

外政

- ◆ウクライナ情勢に関する外務・欧州問題省声明 3
- ◆ライチャーク外務・欧州問題相とケリー米国務長官との会談 . . . 4

社会

- ◆裁判手続きにかかる日数に関する欧州委員会調査 4

経済

- ◆スロバキア中央銀行中期予測（2014年第1四半期） 4
- ◆スロバキア中央銀行月報（3月） 5
- ◆曙ブレーキ工業のトレンチーン進出 6
- ◆2013年の財政赤字公表 6
- ◆投資インセンティブ制度の変更 6
- ◆スロバキア・ハンガリー間ガスパイプラインの開通 6

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆大統領選挙

1. ガシュパロヴィチ大統領の2期目の任期切れに伴う選挙が3月15日（第一回投票）と29日（決選投票）に実施された。

（1）第一回投票

14名の候補者によって争われ、現職首相のフィツォ候補と慈善活動家のキスカ候補の上位2名が決選投票に進出した。投票率は43.4%。

【投票結果】 ※上位7名のみ

候補者名	得票率(%)	得票数(票)
○ロベルト・フィツォ(現首相/Smer-SD/中道左派)	28.01%	531,919
○アンドレイ・キスカ(慈善活動家/無所属/中道右派)	24.01%	455,996
ラドスラフ・プロハーツカ(国会議員/無所属/中道右派)	21.25%	403,548
ミラン・クニャシュコ(俳優, 元文化相/無所属/中道右派)	12.87%	244,401
ジュラ・パールドシュ(元国会議員/SMK(ハンガリー系):中道右派)	5.11%	97,035
パヴォル・フルショウスキー(国会議員/KDH/中道右派)	3.33%	63,298
ヘレナ・メゼンスカー(国会議員/OlaNO/右派)	2.38%	45,180

（2）決選投票

中道右派及び無党派票を集めたキスカ候補がフィツォ候補を破り、次期大統領に選出された。投票率は50.5%。新大統領就任は6月15日の予定。

【投票結果】

候補者名	得票率(%)	得票数(票)
○アンドレイ・キスカ(慈善活動家/無所属/中道右派)	59.39%	1,307,065
ロベルト・フィツォ(現首相/Smer-SD/中道左派)	40.61%	893,841

2. 決選投票後のキスカ次期大統領とフィツォ首相の発言要旨は以下のとおり。

（1）キスカ次期大統領

独立した政党色のない大統領として全ての国民を代表していく。大統領として国民のことを第一に考え、いかなる政党の利益も擁護しない。与党Smerとの関係では健全な「カウンターバランス」となるつもりである。大統領としての給与は受け取らないつもりである。

（2）フィツォ首相

敗北は疑いようのない事実である。この結果を分析するため、そして特に怪我をしている足の治療のため、数日の休みを取ることにしたい。

◆中道右派3党の「人民プラットフォーム」崩壊（Pravda紙：3月18日）

Most-Híd（「架け橋」党）のブガール党首は、同党、キリスト教民主運動（KDH）及び民主キリスト教同盟（SDKU）の中道右派3党による協

力の枠組み「人民プラットフォーム」は既に過去の物であると認めた。ブガール党首は、依然として3党協力を支持する立場ではあるも、今後は同協力をM o s t - H i dの利害に優先させることはないとしている。一方、S D K Uは、K D Hが与党S m e rへの接近を止めない限り、K D Hとの連携は拒否するとの立場を表明している。

◆プロハーツカ議員の新党結成宣言（3月27日）

大統領選挙第一回投票において予想を上回る21%の得票率で3位となり、今後、中道右派グループを率いていく存在となるか注目されていたプロハーツカ議員が新党結成を宣言した。政党名は未定で綱領も作成中とのことである。

プロハーツカ議員は5月の国会終了後に議員を辞職し、市町村選挙に間に合うよう秋には正式に新党を発足させる予定である。無所属のベブラヴィー議員とフルンチアル議員の2名が新党に加わる見込みである他、「新たな多数派」党のリプシッチ党首もプロハーツカ新党との将来的な協力に関心を示している。

外 政

◆ウクライナ情勢に関する外務・欧州問題省声明（3月4日）

スロバキア外務・欧州問題省は、ウクライナ情勢に関する以下の内容の声明を発表した。

3日にブリュッセルで行われたウクライナに関するEU臨時外相会合の結論に関連し、スロバキア外務・欧州問題省はロシア軍の侵略行為によるウクライナの主権と領土の一体性に対する侵害を強く非難する。我々は、これらの行動が国連憲章、OSCEヘルシンキ最終文書及び1994年のブダペスト・メモランダムに基づくウクライナの主権と領土の一体性を尊重するとのロシアのコミットメントに明らかに違反するものであることを強調する。

スロバキア外務・欧州問題省は、ロシアに対し、軍をベースキャンプに撤退させ、ウクライナの情勢に対する介入を控えるよう求める。更なる緊張の高まり、ウクライナの主権、領土の一体性及び独立に対する継続的な侵害は国際社会の平和と安全に対する深刻な脅威となる。我々は、クリミアと東ウクライナへのOSCE国際監視団派遣の提案を支持し、国際社会によるロシア政府とウクライナ政府の間の安全保障と少数民族保護に関連する問題についての仲介と対話再開の努力を歓迎する。

この関連で、我々はこれまでのウクライナ政府の冷静な対応と情勢の安定化に向けた努力を評価する。スロバキアは、全ての関係者に対し、国際法の原則と国際法に基づいた義務を十分に尊重しつつ現状の平和的解決に向けて取り組

んでいくことを求める。我々は、EU、国連及び他の国際機関と連携しつつ、平和的な解決に向けた建設的対話の促進に積極的に関与する用意がある。

◆ライチャーク外務・欧州問題相とケリー米国務長官との会談（3月20日）

訪米中のライチャーク副首相兼外務・欧州問題相はケリー米国務長官と会談した。会談では、クリミアのロシアへの編入を含むウクライナ情勢が主要な議題となった。ライチャーク外相は「スロバキアは（クリミアで行われた）国民投票は無効と見なし容認しない。ロシアへの編入に関する投票はウクライナ憲法に違反している」と述べ、今後の取り組みやウクライナへの支援において米国とEUの緊密な連携が極めて重要である旨強調した。この他、西バルカン情勢、次のNATOサミットについて意見交換し、NATOは加盟候補国に対して引き続きNATOの扉を開いておく必要がある点で一致した。

社会

◆裁判手続きにかかる日数に関する欧州委員会調査（経済新聞：3月18日）

欧州委員会が行った調査によると、スロバキアにおいて民事あるいはビジネスに関する裁判で最初の判決が出るまでの平均日数は、2010年時点の364日に対し、2012年は437日に増えている。時間のかかる裁判手続きがスロバキアでビジネスを行う上での障害の一つとされているが、判決に対する頻繁な控訴が状況を更に悪いものにしている。政府は裁判の迅速化を図るためEUの基金を活用して電子手続きの導入を検討している。

経済

◆スロバキア中央銀行中期予測（2014年第1四半期）

1. GDP

（1）2014年の経済成長率は引き続き輸出を牽引役として2.4%、それ以降は国内需要の拡大が見込まれ、2015年3.3%、2016年3.5%と予測。

（2）2014年1月の小売売上高は消費者心理の改善を示しており、これにより2014年の消費は前年より若干上昇する可能性あり。

2. 労働市場及び賃金

昨年末の労働市場の改善傾向は2014年も継続する見込み。就業率の大きな伸びは2014年前半に予想されるが、後半は経済活動の活発化に合わせたペースに落ち着く。失業率は2016年末には11.7%まで下がると予想。

3. 物価

2014年前半は物価上昇がほぼストップすると見られる。2014年の平均物価上昇率は、低い消費需要やエネルギーの輸入価格及び食料品価格の下落

により、0.2%の見込み。その後、徐々に物価は上昇し、2016年の平均物価上昇率は2%と予測。

4. 貿易

輸出は世界貿易の回復の影響を受け、2014年は4.1%、2015年は5.1%、2016年は5.5%と徐々に増加する見込み。それに合わせ、貿易黒字もGDP比で2014年に7.0%、2015年に7.7%、2016年に8.4%と拡大する見込み。

◆スロバキア中央銀行月報（3月）

1. GDP

(1) 2013年第4四半期の経済成長率は前期比で0.4%と若干加速。これは主に国外需要と投資活動の活発化によるものであり、世界経済の継続的な成長との関連が考えられる。

(2) 2014年1月の売り上げは前月比で0.4%増加。特に鉱工業部門、中でも自動車、金属、プラスチック製品が増加を後押し。

(3) 2014年1月の鉱工業生産は前月比で2.0%上昇し、前年11月以来の比較的大きな増加を記録。前年同期比では12.9%の上昇で、この大幅な上昇は自動車産業によるもの。

2. 雇用率及び賃金

(1) 雇用率が2013年第4四半期に0.3%の増加を記録したのに引き続き、2014年1月も前月比で0.1%上昇。労働市場の状況が悪化した1年前に比べ、企業の雇用に対する見方は非常に楽観的な水準。鉱工業部門で緩やかな雇用率の上昇が継続。IT・通信部門における雇用率は、停滞期間を終え、前月比及び前年同期比で改善傾向。

(2) 2月の失業率も労働市場における好ましい傾向を裏付け。登録ベースでの失業率は前月比0.12%減の13.49%。

(3) 賃金は2014年1月に前年同期比ベースで上昇に転じた。平均賃金は802.7ユーロとなり、前年同期比4.2%増。前月比ベースでは、鉱工業生産部門、自動車販売及びIT・通信部門が上昇傾向を維持。

3. 物価

2014年2月の消費者物価は引き続き減速傾向。前年同期比と前月比で共に0.1%の下落。食品価格下落の影響が最も大きかったが、チェコ・コルナ（チェコの通貨）安も関連。食品の中でも肉、油、脂、小麦製品、野菜の価格が下落。鉱工業製品ではアルコール飲料及びビールの価格が下落。

4. 貿易

(1) 2014年1月の貿易黒字は3億2420万ユーロ。前年同期比で輸出は8.3%、輸入は9.9%増加。

(2) 1月の名目輸出額は前月比で5.5%増となり、過去3年で最も輸出が増加した月の一つとなった。特に自動車輸出の増加が顕著であったが、他の製造業も輸出増を記録。輸入も前月比で4.6%の伸び。

◆曙ブレーキ工業のトレンチーン進出（3月24日）

トレンチーン市議会が曙ブレーキ工業に対する工場用地の約96万ユーロでの売却を承認した。曙ブレーキ工業は年末には自動車用ブレーキ部品の生産を開始したいとしている。同社は第一段階として数十名の雇用を計画している。

◆2013年の財政赤字公表（3月26日）

カジミール財務相は2013年の財政赤字をGDP比2.5%と発表した。当初の予測は3%であったが、税の徴収率の改善、自治体の黒字財政により、それを下回る結果となった。

しかし、最終的な財政赤字はEurostat（欧州統計局）によって4月末に確定することになっており、もし国営病院や国営鉄道の過去の古い負債も赤字に含める、あるいは年金の「第二の柱」の縮小措置のような単発の財政措置を除外するという判断がなされる場合、財政赤字は3%を超える可能性もある。

◆投資インセンティブ制度の変更（3月25日）

国会が投資インセンティブ法改正案を可決し、5月より2億ユーロを超える投資に対しては自動的に税負担軽減措置が適用されることとなった。

投資インセンティブ適用のルールがより明確で透明性が高くなり、汚職の減少につながると評価する声がある一方、投資額のみでは不十分であり、長期的戦略や社会・国・地域のニーズに合わせた条件を設定すべきとの指摘もある。

野党は、ハンガリーの開発業者が2億ユーロを超える投資を計画していることを踏まえ「特定の企業への適用を念頭においたもの」と批判している。

◆スロバキア・ハンガリー間ガスパイプラインの開通（3月27日）

フィツォ首相はハンガリーのサダにおいてオルバーン・ハンガリー首相と共にスロバキア・ハンガリー間ガスパイプラインの開通式典に出席した。

このパイプラインは将来的にポーランドからクロアチアまでを結ぶガスの南北ルートの一部となり、ハンガリーはロシア以外の供給元からガスを得ることが可能となる。スロバキアにとっても将来のナブッコやサウスストリームへの

アクセスを確保するという戦略的意義がある。建設費用1億6000万ユーロのうち3000万ユーロがEU補助金で賄われた。

(了)

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

